

高知駅前における賑わいを生む滞留空間の計画

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻
1250022 居村 竜央
指導教官 重山 陽一郎

1.対象敷地の現状と課題

高知駅は高知県の主要駅として利用され、県内で利用者が最も多いが、四国4県の主要駅の利用者と比較すると二分の一以下である。通学や通勤の通過点として利用している人が多い。また、現在では、連続テレビ小説「らんまん」の影響もあり、県外観光客数は1年間で約100万人増え、鉄道利用人数も増加傾向であり、高知駅の利用者数の増加も予想される。



図1：対象敷地周辺配置図（国土地理院地図に筆者加筆）



図2：現在の対象敷地の建物（筆者撮影）

高知駅の南東に位置する対象敷地（図1）は、北側に

駐輪場とバス乗り場、北西側に高知駅、南側にホテルやマンションが点在している。

対象敷地に現在ある建物（図2）は、駅前という人の流れが見込める場所にも関わらず、周辺環境との関わりが希薄であり、開口も少なく駅前広場との境界線が明確であり、建物自体が独立に機能している状態である。滞留空間が乏しく、駅前に賑わいを生んでいない。駅前という立地を生かし、人の流れが見込め、様々な人々が滞留する要素を持つ施設をデザインすることで駅前に賑やかさをもたらすと同時に駅利用者の増加にも寄与すると考えた。



図3：現在の駅前広場の様子（筆者撮影）

2. 目的

対象敷地に、滞留空間を作り、地域住民や観光客が気軽にコミュニケーションを図れる場を作り、駅前に新たな人の流れと賑わいを創出させる。

3. 設計方針

(1) 駅前を生かした商業施設

対象敷地周辺の、高知駅、駐輪場、バス乗り場、ホテル、マンションなどとの関係性の高い施設を中心とした賑わいの場の創出を目指す。

(2) 人の賑やかさを外部に見せる

対象敷地は、駅を利用する人の目に必ず入る位置にあ

卒業設計概要

る。この現状を活用し、商業施設内の人の動きや、人の滞留を外部から覗けるようにすることで、広場と施設に見る見られる関係を作り、視線が交わるようにすることで、人の賑やかさを建物から広場、駅へと繋げ、一体としての賑やかさを創出する。

(3) 滞留要素を持たせる

植栽やベンチ、屋外テラスなどを人が通る動線上に積極的に配置し、利用する人々が滞留しやすい広場、施設を目指す。

4. 設計

(1) 動線計画に基づいた施設配置

対象敷地の立地から、建物への動線ごとにターゲットを考える。

- ・北側・・・駐輪場やバス乗り場が位置していることから自転車利用者やバス利用者
 - ・西側・・・対象敷地、北西に高知駅が位置していることから駅利用者
 - ・南側・・・ホテルやマンションが多く点在していることからホテル利用客やマンションに住む家族連れ
 - ・東側・・・駐車場を利用する、車の利用客
- それに伴い、店舗構成を施設北館には、駅、バス、自転

車を利用する学生、社会人を想定し、カフェ、学習スペース、雑貨店等を設置する。南館には、ホテル利用客や、マンションに住む家族連れを想定し、土産売り場や、飲食店、スーパーマーケットなどを設置する。

(2) 歩道橋と施設南館の接続

対象敷地の南に位置し、駅から南側街区へ至る歩道橋を施設南館2階の屋外テラスに直接繋げることで、ホテルの利用者やマンションに住む家族連れなど、利用しやすくなる。また、歩道橋から駅へ向かう場合、最短距離が施設内を通る動線になっており、施設内の利用を促す。



図4：歩道橋から見た南館の眺望

歩道橋からは、高知駅、路面電車、施設内部の様子、屋外テラスでの人の交流の様子が伺える。また、歩道橋から施設内へ向かうときに目に入る位置に土産売り場を設置することでホテル利用者に土産の購買を促す。

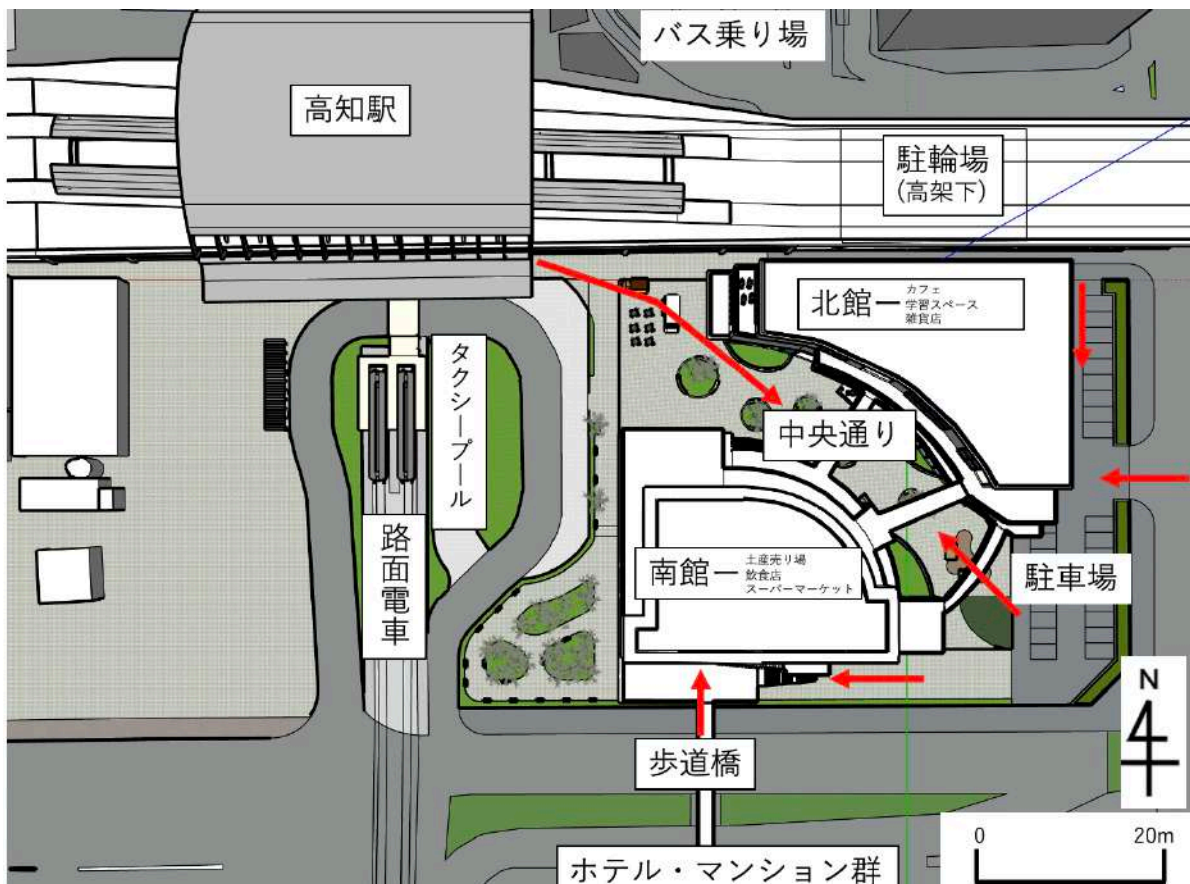


図5：施設への動線と施設概要

(3) 高知駅からの眺望

駅から施設を覗くと、ガラス張りにより、施設内のテラス席で人が飲食している様子や、施設内の移動、滞留スペースでの人々の交流の様子が外部から見え、見る見られる関係が生まれ、視線が交わることで、施設の利用を促すとともに、施設内の賑やかさが伺える。また、ガラス張りにすることで、現在の建物のような大壁による圧迫感もなく、開放的な景観となる。



図6：高知駅から施設の眺望

(4) 施設中央通りでの賑わいの演出

施設中央通りには、カフェなどの屋外でも食べることができる飲食店を並べ、店舗に隣接した席や中央通りの植栽を囲むベンチなど、自由に座ることができる。中央通りは、北館と南館に挟まれており、観光客と地元住民が交わる場となる(図7)。

3階の屋外通路からは、中央通りや北館内部の様子を伺うことができ、視覚的に南館と北館がつながる(図8)。



図7：駅方向からの中央通りの眺望



図8：3階屋外通路から見た中央通りと施設北館



図9：カフェからの中央通りの眺望

カフェからは中央通りのベンチで休む人の様子や南館2階の渡り廊下の人の動きなどが伺える。

施設内中央通りは、商品を購入して座る店舗専用の席と、購入しなくても座って休むことができる中央通りのベンチによって、見えない境界線で役割が分かれており、行動の多様性を生んでいる(図10)。

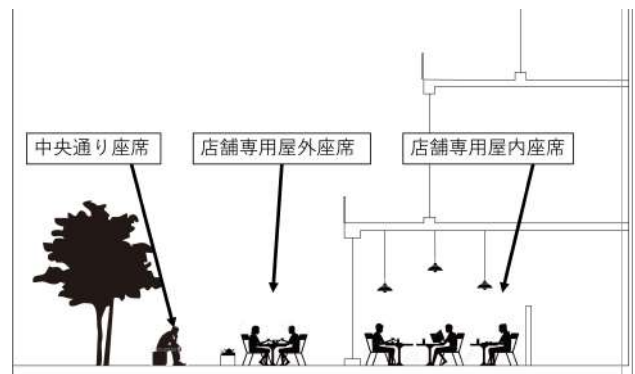


図10：中央通り断面図



図11：施設中央通りの眺望

(5) 施設内学習スペース

高知駅を利用する学生が非常に多いため、学習スペースを設置する。利用する学生に同世代と気軽に交流できる談話スペースと勉強に集中できる自習スペースの空間を提供する。駅や駐輪場に近い北館に配置し、騒音の少ない駐車場側に配置する(図12、13)。

5. 参考文献

高知県外観光客入込・動態調査について

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2017090600162/>

高知市の概要

<https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/80/gaiyou2016.html>



図12：自習スペース

自習スペースは、周りの騒音などに邪魔されず、一人で集中できるように隔離された空間とした。



図13：談話スペース

談話スペースは、同世代と交流するだけでなく、友達同士で勉強することもできる。



図14：施設内歩道橋から見た駅前広場



図15：別視点で見た駅前広場と施設正面